

(3ページからつづく)

## 自立支援介護 給付費等事業 費

問 補正額が大きい  
が、本予算で見込めな  
かったのか。その理  
由は。

社会福祉課長 自立支援給付費については、毎年1億円程度の伸びがあり、それを見込んでいたが、年度途中で7カ所の事業所が新規開設したことによる増加があったため。

## 討論 (要旨)

### 【反対討論】

亀卦川参生 本補正予算は人事異動に伴う人件費補正が中心となっており、現在の一般会計、特別会計、企業会計による職員数は、法的根拠のない定員適性化計画定員と同数であり、条例に基づく定員570人より30人以上

少ないことが明らかとなった。この人員不足が職員への過重労働の押し付けになり、それが原因で心の病を引き起こしている可能性は否定できない。

法的根拠のある定数を守っていくことは大切である。正規職員の不足分を非正規職員などで穴埋めすることは許されない。市内の最大企業は市役所である。職員が希望を持ち、使命感を持って働くことができれば、民間企業に対しても雇用促進、労働条件の改善を訴えていくことができる。さらには、あま市の活性化にもつながっていく。また、保健センター防 waters 工事の監理費が予備費から支出される。予算に計上されていないものが執行されていいはずがない。以上の観点から、反対する。

### 【賛成討論】

佐藤貞夫 本補正予算は、例えば、選挙管理委員会費の委託料をみても、公職選挙法の改正による選挙権年齢引き下げに伴うシステム改修に対応するものである。これは、若者の政治意識を高め、若い人たちの声を政治に反映させて、政治離れに歯止めをかけられるのではないかと考える。また、総合的に国や県の補助金などを活用し、市の負担を少なくした補正案であることから、賛成する。

## 採決結果

賛成多数により、原案のとおり可決。

# 視察研修報告

## 厚生委員会

- 視察日 平成27年11月19日(木)
- 視察先 国立長寿医療研究センター(大府市)

高齢社会が急速に進展し、市でも地域包括ケアシステムの構築が求められている中、今回の研修では、認知症における先進医療の現状と介護および生活支援のための介助ロボットについて視察を行いました。



「もの忘れセンター」では、診断から終末期までの切れ目ない認知症診療を目標に掲げ、認知症の医療・ケアのあるべき姿を追求、最新の脳科学の進歩を取り込んだ予防や早期対応の診療が行われていました。

「健康長寿支援ロボットセンター」では、長寿医療に関する診療と研究機能を有するナショナルセンターとして、ロボット開発に係る実証の場の提供や長寿工学研究の推進などに取り組んでいました。ここでは、委員も実際に介助ロボットを体験し、ロボット研究および技術開発の進歩に驚かされました。

今回の視察を通じ、当委員会でも医療・福祉に力を入れ、しっかりと高齢者福祉施策に取り組んでいきたいと思ひます。